

第 2 次 古 河 市 環 境 基 本 計 画

令和4年度実施状況報告書

令和5年11月

古河市 市民部 環境課

本報告書について

古河市では、2011（平成23）年度に策定された、古河市環境基本計画（以下、「第1次計画」という）に掲げられた基本目標をもとに、環境保全及び地球温暖化等に対する各種施策・事業に取り組んできました。その中で、国内外の社会情勢の変化や、新たな環境の課題に対応する必要があること、また、第1次計画の期間が満了することを踏まえ、「古河市生活環境の保全及び創造に関する基本条例」及び第1次計画の理念・進捗状況等を踏まえた、市民、事業者、市が一体となって取り組みを進めていく指針となる、第2次古河市環境基本計画（以下、「本計画」という）を2022（令和4）年度に策定しました。

本計画の進捗管理は、「Plan（計画）」、「Do（実行）」、「Check（点検・評価）」及び「Act（見直し・改善）」のPDCAサイクルに則って実施し、本報告書は、本計画の令和4年度における進行状況について報告・公表するものです。

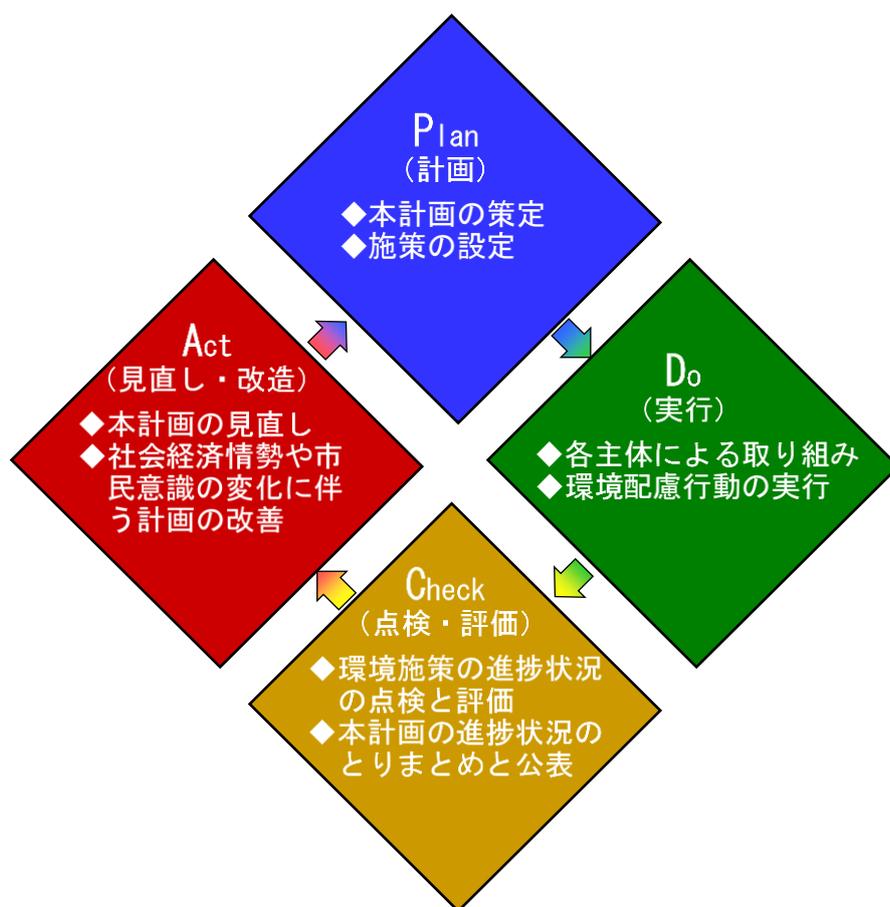


図1 PDCAサイクルによる進行管理

計画の概要

本計画では、「古河市生活環境の保全及び創造に関する基本条例」の第3条「基本理念」に基づき、「人と自然が共生し、豊かな環境・歴史を未来につなぐまち古河」を望ましい環境像として掲げ、その将来像を実現するために、5つの基本目標を定めています。

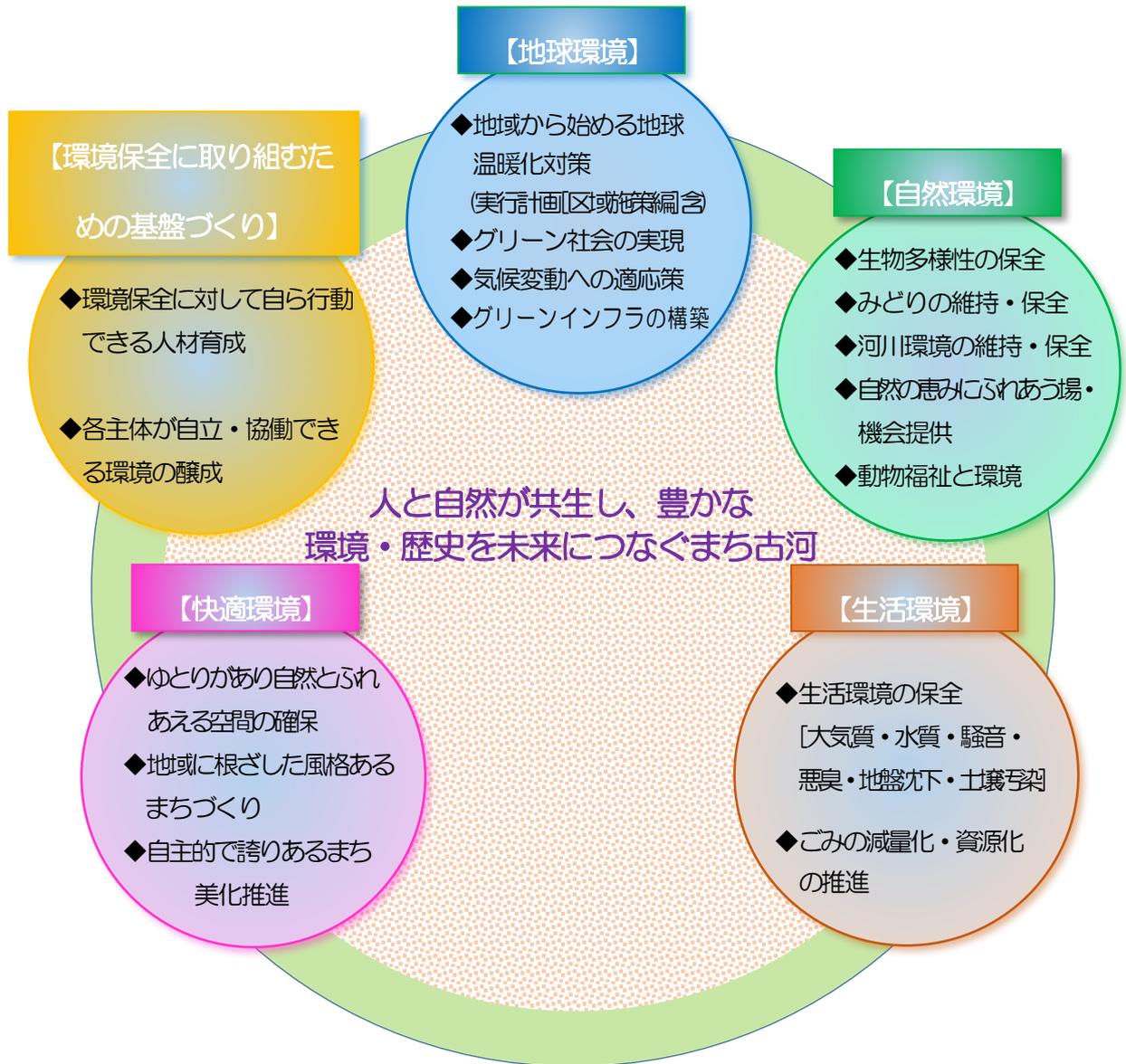


図2 5つの環境基本目標（イメージ）

5つの基本目標の中に、それぞれ重点的に具体展開を図る主要な取組施策となる重点施策を掲げ、これを実現するための基本施策から展開される具体的な施策・事業（全 211 項目）に各所管課で取り組んでいます。



図3 基本施策展開図

評価方法について

➤ 施策・事業の評価について

各施策・事業の進行管理については、各所管課で評価します。その際の評価基準については、表1の通りです。

表1 施策・事業評価基準

評価	基準
A	目標達成（達成した、達成済み）
B	想定以上に進行している（取り組めた、取り組めている）
C	想定通り進行している（取り組めた、取り組めている）
D	想定より遅れている（取り組めなかった、取り組めていない）
E	未着手・未実施

➤ 環境指標の評価について

各施策・事業が着実に展開されているか、その成果、目標に向けて環境がどのように改善されているかを点検・評価するため、定量的な環境指標を設定しており、それぞれの実績値により評価します。

評価結果

➤ 施策・事業の評価

令和4年度における市の施策・事業（211項目）に対する、基本目標別の評価は、表2の通りとなりました。

表2 施策・事業評価集計

基本目標	A	B	C	D	E	計
地球環境	3	7	24	1	8	43
自然環境	3	1	35	1	0	40
生活環境	1	1	43	2	8	55
快適環境	6	0	33	2	7	48
環境保全に取り組むための基盤づくり	1	1	20	1	2	25
計	14	10	155	7	25	211

表2のうち、基本目標に掲げる、重点施策（28 項目）に関する評価は、表3の通りとなりました。

表3 施策・事業評価集計（重点施策のみ）

基本目標	重点施策	A	B	C	D	E	計
地球環境	ゼロカーボンシティ宣言に基づく地域循環共生圏の構築	0	3	2	0	1	6
自然環境	生き物を育むすみかづくり	1	0	5	0	0	6
生活環境	ごみの 3R（Reduce・Reuse・Recycle）の推進	1	1	2	0	0	4
快適環境	コンパクトシティの実現と DX 推進	1	0	1	1	3	6
基盤づくり	民間ネットワークを活用した環境教育活動の推進	0	1	4	1	0	6
計		3	5	14	2	4	28

◎環境指標の評価

令和4年度における基本目標別の環境指標の実績値については、表4の通りとなりました。

表4 基本目標別環境指標実績評価

地球環境					
No	環境指標	単位	実績値 (R2 年度)	実績値 (R4 年度)	最終目標値 (R13 年度)
1	温室効果ガス削減量（2013<H25>年度比）	%	-	12.11	46
2	公用車への次世代自動車普及台数	台	17	21	34
3	全部門において推進する省エネ総削減率（2019<令和元>年度比）	%	-	-	17
4	対消費電力再生可能エネルギー導入比	%	5.3	7.5	36
5	再生可能エネルギーによる発電電力量	MWh	110,142	133,388	748,138
6	自立・分散型エネルギー設備導入補助件数	件	24	29	30
7	いばらきエコスタイル啓発活動	回/件	0	0	4

自然環境					
No	環境指標	単位	実績値 (R2年度)	実績値 (R4年度)	最終目標値 (R13年度)
1	平地林面積	Ha	700.3	686.4	650
2	エコファーマー認定者数	人	43	23	300
3	市民農園利用者数	人	43	23	300
4	耕作放棄地の面積	ha	200	191	210
5	水辺のパトロール実施回数	回	12	12	12
6	野生動物の食害等による被害件数（苦情件数）	件	95	180	50
7	農作物被害防止に向けた有害獣駆除数	頭	-	77	100
8	農作物被害防止に向けた有害鳥駆除数	羽	632	594	700
9	古河総合公園利用者数	人	518,391	532,155	600,000
10	ネーブルパーク利用者数	人	175,300	298,500	400,000
11	農業体験・交流イベント開催数	回	中止	0	4
12	適正飼育に関する啓発活動	回/年	-	2	3
13	農地パトロール実施回数	回	180	4,373	250

生活環境					
No	環境指標	単位	実績値 (R2年度)	実績値 (R4年度)	最終目標値 (R13年度)
1	廃プラスチック等適正処理周知、指導回数	回	11	11	10
2	生活排水処理総合普及率（公下+農業+合併浄化槽汚水処理人口/行政人口）	%	82.1	83.01	93.2
3	水質調査基準超過件数	件	16	22	0
4	「一般道路からの振動や騒音」に対して不満を抱いている市民の割合	%	26.6	-	15.0
5	1人1日当たりのごみ排出量 （前年度実績）	g/人・日	946	907	855
6	リサイクル率（前年度実績）	%	15.8	16.0	20.0
7	家庭用生ごみ処理機の購入補助延べ交付世帯数	世帯	1,264	1,317	1,545
8	集団回収登録団体数	団体	152	134	170
8	資源集団回収による回収量	t	1,310	1,144	1,035
10	市民・事業者への食品ロス対策の啓発活動	回/年	-	0	6

快適環境					
No	環境指標	単位	実績値 (R2年度)	実績値 (R4年度)	最終目標値 (R13年度)
1	1人当たりの都市公園面積	m ²	11.7	11.8	12.2
2	公園・緑地数	箇所	258	267	273
3	里親制度（アダプトプログラム）の登録団体数	団体	22	22	25
4	社寺林や屋敷林の保存樹指定樹木数	本	9	9	9
5	「歴史的・文化的な財産に対する保全状況」に満足している市民の割合	%	57.1	-	65.0
6	文化財・文化施設を活用したイベント開催数	回	0	2	2
7	意識啓発イベントの開催回数	回	1	1	2
8	環境美化活動実施回数	回	中止	2	2
9	放置自転車回収台数	台	79	35	70
10	ぐるりん号（市内循環バス）年間利用者数	人	130,306	171,487	190,000
11	デマンド交通延べ利用者数	人	22,519	26,680	30,000
12	公共交通機関利用者数	万人	386	466	541

環境保全に取り組むための基盤づくり					
No	環境指標	単位	実績値 (R2年度)	実績値 (R4年度)	最終目標値 (R13年度)
1	緑の少年団県登録数	団体	7	8	8
2	こどもエコクラブ加入団体数	校	2	1	10
3	環境保全に関するNPO法人数	団体	3	3	4
4	環境学習イベント開催数	回	1	1	2
5	エコアクション21認証事業者数	事業所	3	3	4
6	茨城県エコ事業所登録事業所数	事業所	28	30	33
7	エコショップ登録店舗数	店舗	5	5	10

※地球環境 No. 3 について、令和5年10月2日現在公表されている最新値が、2019（令和元）年度のものであるため、令和4年度実績値なし。

※生活環境 No.4, 快適環境 No. 5 について、本計画策定時に実施した、環境に関するアンケート調査の内容であり、同様のアンケート調査を実施していないため、令和4年度実績値なし。

※自然環境 No. 13 について、本計画策定後、集計方法が変更となり、実績値と目標値の数値が大きく離れております。

評価のまとめ

市全体の施策・事業評価について、令和4年度の評価として、A評価14項目、B評価10項目、C評価155項目となり、全体のうち、C評価以上の割合が約84.8%となりました。また、計画より進行が遅れているD評価7件も施策・事業に着手していることを踏まえ、D評価まで含めて考えると、約88.2%となりました。全体の施策のうち、重点施策のみに着目すると、A評価3項目、B評価5項目、C評価14項目であり、重点施策のうち、C評価以上の割合が約78.5%となりました。こちらを上記と同様の理由から、D評価2項目まで含めて考えると、約85.7%となり、8割以上が計画に沿った進行ができている結果となり、おおむね良好であると言えます。

対して、E評価（未着手・未実施）の施策・事業は、全体のうち、25項目（約11.8%）であり、その内容は表5の通りです。

表5 E評価となった施策・事業一覧

基本目標	施策名	施策の内容
地球環境	省エネルギー活動の促進	エネファームの導入促進
	地球温暖化に関する情報提供・意識啓発	◎「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく促進区域設定のための地域住民との合意形成
	カーボンオフセットの取り組み促進	広報などを通じたカーボンオフセットの意義やねらいの理解促進
		カーボン・フットプリントに対する理解促進
		J-クレジット制度等の活用促進
	再生可能エネルギーの普及促進	ソーラーシェアリングなど、市内の農地や空地、調整池などを活用した太陽光発電システム導入の検討
再エネ熱の利用（太陽熱や地中熱やバイオマス、下水熱等）を検討、エネルギーの地産地消推進		
水素エネルギー等次世代型再生可能エネルギー導入の研究		
生活環境	事業活動に伴う大気環境負荷の低減	大気汚染防止法に基づく、事業所等の特定施設の管理状況の確認、及び適正化に向けた指導・啓発
	適切な水循環の形成	市道における透水性排水函の導入推進
	家庭系ごみの排出抑制	マイ箸、マイボトル等の携帯によるごみ減量の取り組み促進
		マイバッグキャンペーン等の推進
	事業系ごみの排出抑制	事業系食品廃棄物（事業所・コンビニなど）の資源化による減量に向けた調査・研究等の推進
事業系ごみの組成分析などを通じた分別や減量化の取り組みに向けた調査・研究等の推進		

基本目標	施策名	施策の内容
生活環境	リデュース・リフューズ促進	必要なもののみの購入徹底（または受け入れを拒否）の推進
	リユースの促進	市と市民事業者が協働して 3R を推進する体制づくり
快適環境	市街地におけるみどりの保全・創出	住宅地整備に際しての地区計画制度や緑地協定等の活用
	市街地におけるみどりの保全・創出	情報提供等を通じた屋上緑化・壁面緑化の取り組み促進
	コンパクトシティの実現	古河駅周辺を都市核、諸川周辺を地域拠点とした集約による市街地の形成
	コンパクトシティの実現 DX 推進	◎電気自動車等次世代自動車の普及 シェアサイクル・スクーターの導入の検討 ◎スマートホーム・コミュニティのモデル構築推進 ◎BPR（業務改善）の取組促進による資源の無駄削減（書面・押印・対面等の見直し）
環境保全に取り組むための基盤づくり	取り組み意欲を向上させる仕組みづくり	「エコ事業所登録制度」の普及促進
	環境マネジメントシステムの取組促進	エコアクション 21、レジリエンス*認証等、事業者や持続可能な事業に関する登録を推進します。（環境マネジメントシステムの取り組み促進を継続）

※重点施策に関しては、「◎」を記載

本計画は、令和4年度に策定され、現在の社会情勢に適した取り組みを位置付けた計画となっております。中でも、カーボンニュートラルに関する取り組みは、以前の計画には無かった内容となっており、取り組みを進める中で、様々な検討が必要となってきます。

C評価以上の施策・事業については、引き続き、本計画に沿った取り組みを推進してまいります。

E評価となっている施策・事業は、その多くが、他計画の進捗により、付随して取り組みが進んでいくもので、現時点では実施していない状況となっております。この中には、カーボンニュートラルの取り組みに付随するものも含まれており、本計画の期間内にそれぞれの計画を進め、実施してまいりたいと考えています。